

「令和の米騒動」についての複眼思考

北進ゼミナール

「令和の米騒動」とは、2024 年夏に全国各地のスーパーの棚からコメが消えてしまい消費者がコメを求めて奔走する事態となったことを指す。そして、それに伴い資料Ⅰの通りコメの価格は急騰し、2025 年 2 月には米価を下げるために政府が備蓄米の放出を発表するに至った。しかし、3 月末の時点でも価格は高止まりしたままである。一体何が根本的な要因なのだろうか。

インターネットで検索してみると様々な視点や立場から考察が行われている。数年来の猛暑による高品質なコメの減少、昨夏の南海トラフ巨大地震臨時情報発表に伴う消費者の買いだめ、インバウンド消費^{注1}の増加、生産調整による収穫量の減少、さらには流通経路の多様化とそれに便乗した投機目的^{注2}の新規参入卸売業者の存在などである。これらが相まって米価を押し上げたのだと理解できた。

実は 2025 年 2 月時点での筆者の認識は、その内の一つに過ぎない「投機目的の業者の介入が米価を押し上げている」というものだけであった。テレビ各局のニュースで政府の「米価が高騰しているのはコメ不足が原因ではなく、流通経路から多くのコメが消えたからだ」という趣旨の記者会見と、それを裏付けるようにコメの流通事業に新規参入した業者や怪しげな転売ヤーの取材映像が脳裏に焼き付いていたからである。メディア情報の一部を安易に紐づけて分かった気になってしまっていたのは短絡的であったと反省している。

ところで、生産者であるコメ農家の方は今の状態をどのように見ているのだろうか。農業協同組合新聞電子版の 2024 年 11 月 6 日付の記事には「やっと生産継続な価格に戻ったと思います。今までが安過ぎたのです」「これまでずっと赤字でした。農家目線ではもう少し上がってもいい」などのコメ農家の方のコメントが紹介されている。それと共に「米価が急に上がり過ぎたような気がします。主食である米を確保できるよう国にも考えて欲しい」という声も掲載されている。

実は 1971 年からの約 50 年間、国は米価の安定とコメ農家の保護を目的に減反政策という農業政策を展開してきた。資料Ⅱはその仕組みを簡単に示したものだ。2018 年に廃止となったが、「生産調整」という名の下で形を変えて存続していると主張する人もいる。それがどうであれ、今までの米価は国の政策で大枠が定められ、コメ農家は補助金を得る代わりに旨味^{うまみ}のない農業経営を強いられてきたことが伺^{うかが}える。その歪^{ひずみ}が複合的な要因をきっかけに一気に噴出したというのが今の姿ではないだろうか。

資料Ⅲから分かる通り、コメは我々の主食であると同時に国内自給率が極めて高い品目である。国際情勢が不透明さを増している今、他国から輸入しなくても賄^{まかな}える食料の存在はとても貴重である。だからこそ生産者にも我々消費者にもメリットのある新たなコメ作りの姿を模索していかねばなるまい。

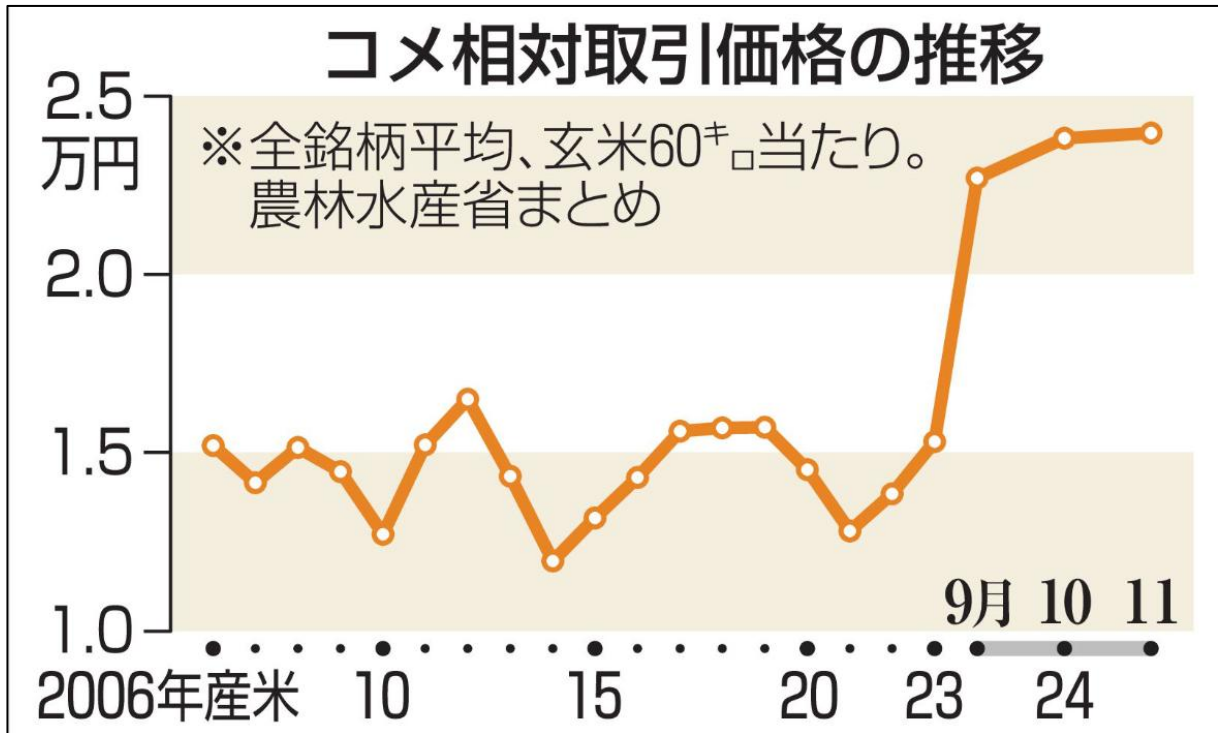
「令和の米騒動」をモチーフに論じてきたが、このように物事には様々な側面がある。一つの視点から得られる情報のみで早合点することなく、複数の視点から得られる情報も加味して考える癖をつけないと物事の本質に迫ることはできない。改めて情報リテラシーの大切さを肝に銘じておきたい。

以上

注 1. インバウンド消費：訪日外国人旅行者による消費活動

注 2. 投機目的：価格の変動を利用した利益の追求

□資料Ⅰ 米価の推移(2024年12月20日共同通信記事より引用)



□資料Ⅱ 減反政策のイメージ図(東京新聞2013年11月8日記事の二次利用)



注) 休耕田：元々水田であったのにコメの生産量調整のためにわざと作付けを行わない田地

□資料Ⅲ 主な食糧品目の自給率(NHK サクサク経済 Q&A 掲載の表より抜粋して作成)

品目別の国内自給率(カロリーベース)					
コメ	魚介類	畜産物	野菜	果実	小麦
98%	54%	15%	76%	32%	17%

「令和の米騒動」についての複眼思考

今回は 2024 年夏に発生したコメ不足と米価の高騰を題材に、物事には多面性があるのでいろいろな視点から見つめていくことが大切だということを分かってもらおうと考えました。課題文や資料Ⅰ・資料Ⅱ・資料Ⅲに目を通した上で、以下の条件に従って常体語(「～だ」「～である」調)で作文を書いてください。なお、課題作文は以下の手順に従って3日に分けて取り組んでください。また、(3)でテンプレートが示されていますが、それにこだわる必要はありません。(1)(2)の条件を守れば自由に書いて構いません。

(1)指定作文用紙に 800 字以内で書くこと。タイトルは不要です。

(2)以下の順番で目安時間(3日間合計 3時間以内)を意識して進めてください。

- ①【初日 20 分程度】課題文第一段落と資料Ⅰに目を通し、資料Ⅰから読み取れたことを述べると共にあなたの感じていることを 100～150 字程度で下書きしてください(いきなり原稿用紙に書き始めないようにしましょう)。
- ②【初日 20 分程度】あなた自身がコメ不足や米価高騰についてもともと知っていたことを簡単に述べた上で、課題文第二段落を読んで学べたことや考えたことを 100 字程度で下書きしてください(同上)。
- ③【初日 20 分程度】課題文第三段落と資料Ⅱに目を通し、減反政策について読み取れたことを述べると共にコメ農家の方に思いを馳せて考えたことを 200 字程度で下書きしてください(同上)。
- ④【二日目 20 分程度】課題文第四段落と資料Ⅲに目を通し、読み取れたことを述べると共に今後の日本のコメ作りに対してあなたなりの提案を 300 字程度で下書きしてください(同上)。
- ⑤【二日目 30 分程度】課題文末尾の三行を読んで、物事を理解するにあたって今後はどういうことを意識したいかを 50～100 字程度で下書きしてください(同上)。
- ⑥【二日目 30 分程度】①～⑤がつながるように接続詞を入れた上で、誤字脱字の訂正、句読点・助詞の点検及び修正などを行って 800 字に収まるようにして下書きで書いてください。なお、その際に主語と述語のねじれや話し言葉(「～だけど」)の多用に特に注意してください。
- ⑦【三日目 30 分程度】⑥で完成したものを最終確認しながら指定原稿用紙に清書してください。

(3)書き方がよく分からないという生徒は以下のテンプレートを参考にして書いてください。

- ① コメ価格の高騰が続いている。資料Ⅰによると玄米 60 kg の価格は○年産米が約○円であったのに対し、○年産米は約○円と○倍近くになっている。私の家庭では～という影響が出ている。
- ② 私自身はもともと～が原因だと考えていたが、課題文を読んで～ということが分かった。
- ③ その一方で、課題文にあるコメ農家の声を読んで～ということが分かり～という気持ちになった。2018 年まで続いていた減反政策については～という仕組みであると理解した。補助金の金額が 10 アールあたり○円であることを知って～に感じている。
- ④ コメは我々にとって～という存在である。例えばパンの原料である小麦の自給率と比較すると○倍以上になる。不安定な国際情勢を考慮すると～のように考えていく必要がある。私は日本のコメを～であると思っているので、～を提案したい。そうすれば～となるのではないだろうか。
- ⑤ 今回の課題を通して～ということが分かった。今後は～にしていきたい。

以上